

生理学書出版（仮）年表

——江戸から明治前期まで——

矢部 一郎

『解体新書』の翻訳と出版（安永三、一七七四）によって、西洋解剖学の受容と紹介がなされて以来、外科学、内科学、薬物学など各分野の受容と紹介がなされていった。生理学もその一つである。西洋生理学の受容と紹介について、とくに、江戸時代の場合については、内山孝一の立派な研究がある。しかし、これですべてが終るわけではなく、とりわけ、明治時代以後については、研究の余地が多々残されている。

筆者は、宇田川榕菴（一七九八～一八四六）の西洋生理学の受容と紹介について、主に呼吸を中心に検討し、さらに、榕菴以前の青地林宗（一七八四～一八三三）、高野長英（一八〇四～一八五〇）の場合と比較した。その後、榕菴以後に関心をもつようになった。さらに、府藩県制時代の科学技術についての共同研究がはじまり、明治時代に視点を向けるようになった。明治時代については、大沢謙二（一八五二～一九二八）に始まる実験生理学研究がある。しかし、一方、西洋生理学の受容と紹介は、明治時代においても、重要な状況だったはずである。

研究の準備作業として、刊本、稿本を列挙することにした。必然的に、年表形式をとることになった。しかし、稿本については、成立年不明のものがある。そこで、結果としては、刊本の年表となった。江戸時代、生理学的内容を含む稿本

がかなり知られているが、明治時代の記載方法に合せている。また、江戸時代の場合、刊本が多いとはいえないので、『解体新書』以来の刊本の年表とした。

明治時代については、生理学書に限定したが、江戸時代の場合、生理学書以外のものでも、生理学的内容を含むものも、とりあげた。解剖学書、病理学書、内科学書、診断学書、薬物書、理学書などである。江戸時代の場合、生理学書の刊本は多くない。また、当時の解剖学書、病理学書などにおいて、かなり生理学の解説がなされているので、西洋生理学の受容と紹介を的確に知るためには、生理学書のみに限定することはできない。^(一)

年表の作成は、江戸時代については、内山の著作を中心^(二)に、明治時代については、国会図書館の明治期刊行図書目録を中心^(三)に、図書館の蔵書目録その他を利用しておこなった。^(四)年表は、明治二〇(一八八七)年までとした。明治一九年に帝國大学令が公布されたことを意識したわけである。翻訳書の場合は原典、著書の場合は参考書を示し、それぞれの著者名、原綴、生没年など、知り得た範囲で、付記することに努めた。

江戸時代

一七七四(安永三)年

『解体新書』四卷 附図一卷 杉田玄白 (解剖)

Johann Adam Kulmus (1689~1745) (独) *Ontleekkundige Tafelen*, 1734. (蘭訳本)

一七九七(寛政九)年

『官能真言』一冊 大槻玄沢 (生理)

一八〇五(文化二)年

『和蘭内景医範提綱』三卷三冊 附図一帖 宇田川榛齋 (解剖)

Johann Adam Kulmus, Steven Blankaart (1650~1702) (独) Nieuwehervormde Anatomie, 1678 (蘭訳本)

Johan Palfyn (蘭) (1650~1730) Heelkundige Ontleding van s'Menschen Lichaan, 1733.

『和蘭医話』二卷 伏屋素狄 (生理)

一八〇八(文化五)年

『三才窺管』三卷 広瀬周伯 (理学)

一八二六(文政九)年

『重訂解体新書』全二三卷 附図一帖 杉田玄白訳 大槻玄沢重訂 (解剖)

一八二七(文政一〇)年

『気海観瀾』一卷 青地林宗 (理学)

Johannes Buys (1764~1838) (蘭) Natuurkundig Schoolboek, 1798.

一八三二(天保三)年

『医原极要』卷一(内編一冊) 高野長英 (生理)

Georges Dicalfoy (1739~1811) (仏) Johann Friedrich Blumenbach (1752~1840) (独) Grondbeginselen der

Natuurkunde van den Mensch, 1835 (蘭訳本) Theodor August Roose (1771~1803) (独) Handboek der Natu-

urkunde van den Mensch, 1809 (蘭訳本)

『西医原病略』一冊 小関三英 (病理)

Georg Wilhelm Christoph Consrbruch (1764~1837) (独) Geneeskundig Handboek voor Praktisch Artsen, 1817

(蘭訳本)

一八三四(天保五)年

『植学啓原』三卷 宇田川榕菴 (植物)

『遠西医方名物考補遺』九卷 宇田川榛齋訳 宇田川榕菴校補 (藥物)

一八三六(天保七)年

『導蘇私録』三卷 小出君徳 (解剖)

一八三七(天保八)年

『舍密開宗』二二卷 宇田川榕菴 (化学)

一八四八(嘉永元)年

『機体一覽』一冊 赤松哲夫 (生理)

一八四九(嘉永二)年

『病学通論』三卷 緒方洪庵 (病理)

Christoph Wilhelm Hufeland (1762~1838) (独) Pathologie of Zieckkunde, 1801 (蘭訳本)

G.W. Consrbruch, Handboek der Algemeene Zieckkunde, 1817 (蘭訳本)

Philipp Karl Hartmann (1773~1830) (独) Ziecke-Leer of Algemeene Zieckkunde, 1827 (蘭訳本)

Johann Wilhelm Heinrich Conradi (1780~1861) (独) 蘭訳本

Antheleme Richerand (1779~1840) (法) A. Richerand's Nieuwe Grondbeginselen den Natuurkunde van den Mensch, 1824 (蘭訳本)

J.F. Blumenbach (独) Grondbeginselen der Natuurkunde van den Mensch, 1835 (蘭訳本)

前田 T.A. Roose 蘭生理学書

一八五一（嘉永四）年

『気海観瀾広義』一五卷 川本幸民（理学）

前出 J. Buys の理学書及び Volks-naturkunde, 1831

J.N. Isfording (独) Naturkundig Handboek, 1826 (蘭訳本)

一八五五（安政二）年

『人身生活機能位置綱目之図解』一冊 広瀬元恭（生理）

前出 A. Richerand の生理学書第九版（一八二六）

一八五六（安政三）年

『利撰蘭度人身窮理』三卷 広瀬元恭

前出 A. Richerand の生理学書

『知生論』三卷 広瀬元恭（生理）

Adolf Ypex (1749~1820) (蘭) Physiologiae Humani Corporis, 1809

『理学提要』五卷 広瀬元恭（理学）

前出 J.N. Isfording の理学書

一八五七（安政四）年

『西医脈鑑』一卷 広瀬元恭（診断）

Anthonic Moll (蘭) Leerboek der Geregelyke Geneeskunde, 1826

『察病龜鑑』三卷 青木浩斎（診断）

Christoph Wilhelm Hufeland (1762~1836) (独) Enchiridion Medicum, Handleitung tot de Geneeskundige

Praktijk, 1838 (蘭訳本)

『全体新論』二卷 合信 (翻刻本) (解剖)

合信譯 Benjamin Hobson (1816~73) (英)

一八五九 (安政六) 年

『内科新説』三卷 合信 (翻刻本) (内科)

一八六六 (慶応二) 年

『生理発蒙』一四卷 島村鼎甫 (生理)

Liback (蘭) の生理学書 (一八五五年版)

明治時代

一八七〇 (明治三) 年

『日講記聞』六卷 原生科神経編、飲食消化編 抱独英口授 大学東校官板 東京 島村利助

抱独英 ボーディン Anthonius Franciscus Bauduin (1822~85) (蘭) (1862~66, 68~70 滯日)

一八七三 (明治六) 年

『解体生理図説』四卷 維廉社児寧児著 島村鼎甫閱 佐々木東洋訳 東京 島村利助

維廉社児寧児 イルレムトルネル William Turner (1838~1918) (英) 佐々木東洋 (1838~1918) 島村鼎甫

(1830~81)

『初学人身窮理』二冊 カットル著 松山棟庵、森下岩楠訳 松山棟庵刊

カントル Carvin Cutter (米) 松山棟庵 (1839~1919)

『生理新論』四卷四冊 越爾墨連士著 松村矩明訳 大阪 啓蒙義舎 (浅井吉兵衛)

越爾墨連士 ヘルメレンス Christian Jacob Ermerius (1841~80) (蘭) (1870~73滯日)

『暗氏生理記聞』三卷三冊 暗啜英 (ボードイン、蘭) 口授 門人筆記 京都 若林喜助 (合書堂)

一八四七 (明治七) 年

『生理記聞 (暗氏)』一冊 暗啜英 (ボードイン) 述 京都 村上勘兵衛等

『全体新論』卷之一 合信著 森鼻宗次編 発竜堂

『全体新論訳解並図式添』三卷 合信著 石黒厚訳 静観堂

『全体新論訳解』四卷四冊 合信著 高木熊三郎訳 文栄堂

『仮字附人身窮理』三卷 須越独列児 (スエドレル、独) 著 大野恒徳訳 東京 英蘭堂

『生体便蒙歌』上下二冊 鈴木柔、三宅禎、三宅恒共著 知新堂

一八七五 (明治八) 年

『解剖生理浅説』四冊 マルチンダル著 小林義直訳 東京 蘆湾漁舎 (小林義直)

Joseph C. Martindale (米) Human Anatomy, Physiology and Hygiene.

『人身問答』前後二冊 江馬元齡著 大阪 岡安慶介刊

『生理書 (弗氏)』七冊 弗知遜著 坪井為春、小林義直訳 文部省蔵版

弗知遜 (ホチンソ) Joseph Christmas Hutchison (1827~87) (米) Treatise on Physiology and Hygiene for

Schools, 1872.

『生理略説』二冊 須越独列児著 柳元永訳 秋田病院編 秋田県医学校 (聚珍社)

一八七六(明治九)年

『生理訓蒙』三卷三冊 惠美麗(エミレ、独)著 菅野虎太訳 大阪 真部武助刊

一八七五年刊のドイツの小学生向けの生理書

『生理書(達爾頓氏)』一〇冊 ダルトン著 藻寄隆次訳 物部誠一郎校 大阪 文海堂

John Call Dalton Jr. (1825~89) (米) Treatise on Human Physiology, 1873.

『生理書(華氏)』二冊 坪井為春訳補 埼玉医費

Henry Harshore (1823~86) (米) A Conspectus of the Medical Sciences, 1869.

『生理提要』一二卷一二冊 ホクスレー著 ユーマンス訂 小林義直訳 英蘭堂

ホクスレー Thomas Henry Huxley (1825~95) (英) フォーンズ William M. Jay Youmans (1838~?) (米)

The Elements of Physiology and Hygiene, 1876.

『小学人体窮理問答』一冊 永田方正抄訳 大阪 岡田茂兵衛刊

『新潟病院講筈日記』卷之一 生理篇 一冊 ファン・デル・ヘーデン述 小石第二郎訳 新潟病院刊

W. Van der Heyden (蘭) (1873~82, 84~94滞日)

『人体部分問答』一冊 小林義則編 横浜 金港堂

『人体問答』一冊 中里亮編 東京 山中市兵衛刊

『初学人身窮理』上下二冊 二刻 カットル著 松山棟庵、岩下岩楠共訳 東京 訳者刊

『百科全書 動物及人身生理学』二冊 田代基徳訳 文部省

一八七七(明治一〇)年

『初学人身窮理字解』一冊 河野通宏編 大阪 奥田栄世刊

『人身体理解剖』三冊 戊遜著 志賀雷山訳 栃木町 集英堂

戊遜 *Sir W. J. Erasmus Wilson (1809~84)* (英)

『生理各論(越氏)』一冊 越爾蔑哇斯(エルメンス)著 大久保常成訳 島村利助刊

『体液成分篇(生理要略)』一冊 松尾耕三編 大阪 文海堂

一八七八(明治一一)年

『人身体理解剖字引』一冊 中島操編 志賀雷山訳 栃木町 集英堂

『通俗全体新論』初編 二卷一冊 合信著 松井惟利抄訳 石井修軒訳

一八七九(明治一二)年

『済生化学』一冊 房曼著 久原躬弦訳 久米井隆吉刊

『小学人身体理談』一冊 齋藤寿蔵編 大津 五車堂

『小学生理書』四卷三冊 ホストル・エム著 桑田衡平訳 古渡資秀訳 訳者刊

ホストル・エム *Michael Foster*

『生理小学(満氏)』三冊 満私歇兒篤著 佐藤方朔訳 大阪 藤井克三、小西松三刊

満私歇兒篤・メンズフハント *Constant George van Mansvert (1837~1916)* (蘭) (1866~79滯日)

『生理提要附録』上中下三冊 ホクスレー著 ユーマンス訂 生田安宅訳 小林義直訳 岡山 生田安宅刊

『生理問答(小学必読)』三冊 松尾耕三著 大阪 山本重助刊

『東京大学医学全書生理篇』巻一~巻二二 チーゲル講 橘良佐、山崎元脩、谷口謙訳 芸香社 一八七九~八二年刊

Johann Ernst Tiegel (1849~?) (独) (1877~83滯日)

一八八〇(明治一三)年

『初学人身窮理（喝氏）』上下二冊 掲図記骨格の部四丁 喝登留（カトル）著 伊藤正信訳 東洋館

『初学人身窮理後編』上中下三冊 カトル著 松山棟庵、森下岩楠訳 棲霞堂（慶応義塾出版社）

『初学人身窮理字引』一冊 鹿野至良編 明善堂

『生理学』上下二冊 永松東海著 丸屋善七、島村利助刊

『生理小学』一冊 三好學編 大岩貫一郎閱 名古屋 栗田東平刊

『生理書補遺』一冊 弗知遜著 久松義典訳 青山清吉刊

『人身生理学』三卷三冊 松山誠二纂述 坪井信良校閲 東京 島村利助刊

『生理訳語集（音引）』一冊 松山誠二訓注 雪傑書屋

『生理全書』上・下 藤堂軾三訳 競英堂

『解剖生理学語部』一冊 奥山扇章編 牧野吉兵衛刊

一八八一（明治一四）年

『生理書』一冊 文部省蔵版 大阪 岡島真七刊

『生理養生論』四卷合本一冊 カルウキン、カトル著 小林義直訳 小林義直、島村利助刊

『小学生理訓蒙』二冊 宇田川準一編 同盟舎

『生理問答（小学必読）』二冊 松尾耕三著 高橋正純訂 大阪 積玉圃

一八八二（明治一五）年

『生理学』二冊 賀古鶴所訳 刀圭書院

『生理書』七冊 文部省蔵版 大川新吉刊

『生理学（鼈傑兒）』上下二冊 長谷川泰刊

『人身生理学』上中下合本一冊 松山誠二著 松山誠二刊 改正二版

『新纂医用化学』上編 グリーン著 八杉利雄、藤田正方訳 英蘭堂

『生理小学』三卷三冊 林 崇著 貫誠堂

『小学生理篇』卷之三 一冊 榎木寛則訳 榎木寛則刊

『初学人身窮理(増補訂正)』上下二冊 カットル著 松山棟庵編 棲霞堂

一八八三(明治一六)年

『歇爾蔓氏生理学』上下二冊 江口襄訳 刀圭書院(原田貞吉)

歇爾蔓 ヘルマン Ludimar Hermann (1838~1914) (独) Handbuch der Physiologie, 1880.

『初学生理書字引』一冊 塩原恵助編 坪井為春閱 埼玉 鴻巣町 盛化堂

一八八四(明治一七)年

『訓解普通生理学』上下二冊 江馬春瀝著 丸屋善七刊

『人体解剖図解(生理小学)』一冊 林 崇編 貫誠堂

『人体生理図一付号解一』一冊 ション・マーシャル著 西郷吉義訳 田口和美閱 辻謙之介、阪上半七刊

一八八五(明治一八)年

『小学人身窮理初歩』三冊 篠田正作編 飯田信逸閱 大阪 岡島真七刊

『新撰生理書』上下二冊 福岡 林斧介等刊

一八八六(明治一九)年

『生理新説』一冊 小林省三編 長野 梓村 小沢省三刊

一八八七(明治二〇)年

この年表は、後に示す様に、いくつかの図書館蔵書目録などを中心につくったもので、刊本をすべて収録したものではない。明治時代の刊本については、初版、再版などについて、きちんと揃えているわけではない。また、初等教育のためのものから、専門書まで、区別できないまま収録してある。さらに、年表の後半では、翻訳書の原著者、原典を明示できなかった。

江戸時代から明治初期にかけては、場合によって、稿本は、刊本よりも重要である。稿本類は、成稿年が不明で、年表に入れられない場合も多い。しかし、稿本類を無視して、年表だけで、判断してはならないであろう。この様に不備な点も多い年表を公表したのは、その欠を補っていくために、多くの御教示を期待したためである。

医学生対象の専門書、教科書類は、一般に地方医学校、医術開業試験対象のものであり、原語教育を行なった東校、大東校、東京医学校、東京大学の本課生のためものではない。中央の医学生に関しては、この年表で探ることはできない。また、医学教育用や医術開業試験受験用の本の地方における出版は、この年表で見られるより、もっと多かったと思われる。

今迄述べてきたことから、この年表から、あまりはっきりしたことはいえない。しかし、二、三気付いた点について述べたい。江戸時代においては、生理学書は、幕末の安政年間以降になって、やっと、まとまった形のものが出版されることになる。このことは、江戸時代において、西洋の生理学的知識は、他の医学分野の刊本、稿本により、また生理学の稿本により、受容し普及したことを示している。

明治時代において、明治五（一八七二）年まで、生理学書が、ほとんど出版されていない。明治四年廢藩置県が行なわれた。その年、文部省が新設され、翌五年、学制が制定された。維新から明治四年までは、府藩県制時代と呼ばれ、流動

的な時代であった。医学書は全分野にわたり、明治五年以降と比べて、刊行数は少ない。^(一七)

ところが、明治九(一八七六)年の生理学書の刊行数は非常に多い。この年、刊行された解剖学書、生理学書は、一五部に及ぶという情報もあるが、^(一八)おそらく、もっと多かったと考えられる。この状況は、^(一九)医学開業試験にあってと思われる。明治七(一八七四)年、医制が制定された。その第三七条には、^(二〇)医学開業試験の規定がある。試験科目には、「生理学大意」が含まれていた。翌八(一八七七)年、東京、大阪、京都で医学開業試験が実施された。明治九年には、全国的に実施されることになった。そのため、受験用の生理学書が数多く刊行されたのであろう。

さらに、明治一二(一八七九)年、^(二一)医学開業試験規則ができた。各府県で行っていた試験を、全国的に統一し、内務省が出題することにより、問題の難易の不公平をなくそうとした。明治八年の布告では、各学科の「大意」を試験することになっていたが、その「大意」の二字を削り、試験を難しくした。^(二二)明治一二(一八七九)、一三(一八八〇)年における生理学書刊行数の多さは、そのためによるのかもしれないが、その刊本の内容検討をしていない現在、はっきりしたことはいふことはできない。

なお、明治九(一八七六)年に山本義俊訳『窮理人身論』、明治一二(一八七九)年に東京医学社編『医学七科問答生理篇』、三田村敏行『小学生理書』が刊行されたとされるが、^(二三)年表には、次の機会に入れたと思う。

文 献

- (一) 内山孝一 明治前生理学史 明治前日本医学史 第二卷 日本学術振興会 八五〇三二七頁 一九五五年
 - (二) 矢部一郎 宇田川榕菴と生化学 化学史研究 三三三号 一七八〇一八五頁 一九八五年
 - (三) 矢部一郎 宇田川榕菴と生理学 植学啓原Ⅱ宇田川榕菴 復刻と訳注 二八六〇三一頁 講談社 一九八〇年
- (三) 自然科学、医学、農学、工学、家事、芸術、体育、諸芸の部 国立国会図書館蔵明治期刊行図書目録 第三卷 国立国会図書館 一九七三年

- (四) 日本大学医学部図書館古医学資料目録 日本大学医学部図書館 一九八四年
- (五) 古医学目録—一九七〇年—順天堂大学図書館 一九七〇年
- (六) 山崎文庫目録 順天堂大学図書館 一九六九年
- (七) 古医学目録 慶応大学医学情報センター 北里記念医学図書館 一九七三年
- (八) 東京大学総合図書館古医学目録 東京大学総合図書館 日本古医学資料センター 雄松堂書店 一九七八年
- (九) 医学古書目録 日本医学文化保存会 金原書店 一九七六年
- (一〇) 杏雨書屋蔵書目録 武田科学振興財団 臨川書店 一九八二年
- (一一) 改訂内閣文庫国書分類目録 下 国立公文書館内閣文庫 一九七五年
- (一二) 石原明 生理学年表 生理学講座 一一一 日本生理学会 一九五三年
- (一三) 酒井シヅ、水間棟彦 一九世紀西洋医学の受容—翻訳医書の種類の動向から— 幕末の洋学 中山茂編 二四一—二五八頁 ミネルヴァ書房 一九八四年
- (一四) 阿知波五郎 近代日本の医学—西欧医学受容の軌跡— 思文閣出版 一九八二年
- (一五) 小川鼎三 医学の歴史 二〇九—二一〇頁 中央公論社 一九六四年
- (一六) 大島蘭三郎 明治の医学 明治文化史 五学術 二八一—二八四頁 一九六四年
- (一七) 酒井シヅ 日本の医療史 四一八—四二二頁 東京書籍 一九八二年

本稿は、昭和六二（一九八七）年六月二七日の日本医史学会例会、翌日の洋学史研究会で、「幕末から明治前期にかけての生理学書の出版」という題により発表したものと、当日配布した年表を基に、まとめたものである。

(立正大学教養部)